

誰が、どこに行くのか?

アミール・ツアルファティ

- 人類の終わりと将来に対する神のご計画について -

<https://youtu.be/Ch06tS0BvoQ>

今朝のメッセージのトピックは、『誰が、どこに行くのか?』。タール山が噴火し、そして、この10~15日間の中東の状況のエスカレートは、トップテロリストが殺され、世界は、これまでだ、と考えます。グーグルが発表した検索ワードのトップは、「第3次世界大戦」。つまり、人々は文字通り考えたのです。世界大戦が、そこまで来ている、と。そして、どうしてよいのか分からない。困難が来て、そして物事が手に負えなくなると、人はパニックになり、その後、自問自答し始めます。「ここで何かが起こったら、どうなるのだろう」それはテロである必要はありません。必ずしも戦争である必要はありません。火山噴火によって、全国が完全に麻痺する可能性もあります。認めましょう。日曜日の夕方から月曜日の午後まで、マニラでさえ麻痺しました。人口何百万人ももの都市が、ただ灰と煙のために。ご想像通り、人々は理解したいと思っているのです。次は何か?自分はどこに行くのか?もし私に何かが起こったら、どうなるのか?

次に、私たちは理解しなければなりません。神は、人類が住む場所として地球を造られたのです。神は、彼らのために天国を造ることもできました。しかし、天国は神と神の御使いのための場所で、神が人間にお与えになったのは地球です。また、私たちは理解しなければなりません。神が人間に地球をお与えになったとき、主は、彼らのために、そこを完璧に造られました。何も必要なかった。アダムは、必要なものすべてを与えられました。実際、アダムは本当に、ある意味、その木から食べる必要はなかったのです。全く。それは彼に何も加えません。わかりますか?そこには火山噴火はなく、地震はありませんでした。実際、洪水も津波も、台風もハリケーンも、何もありませんでした。それは完璧でした。そして何よりも素晴らしいのは、神が、人間と交わるために降りて来てくださるのです。当時、神殿も犠牲も、血を流す必要もありませんでした。贖う罪はなく、完璧な調和があったのです。それは神と、神の創造の最高宝石、人間との完璧な交わりでした。そのことから、なぜ神は人間にそれほど失望したのかが分かるでしょう。創世記の第6章で、神は、すでにこの世を一掃したかったのです。聖書には、神が、人を造ったことを残念に思ったとあります。興味深いと思いませんか?それにはたった、文字通り…、すべてが完璧だったのは、ほんの数ページです。そして残りの部分で、神は、すべての人に伝えようとしています。

「悔い改めなさい。そして、もしあなたが悔い改め、自分のやり方を変えるなら、希望がある」
神と人とは完璧で、神は人と交わりたかったのです。しかし、人は神との交わりよりも、敵の嘘と欺瞞を信じる方を選んだのです。人は、唯一の神が「触るな」と言われたものを見て、手に入れることを選んだのです。人は神に背き、神をないがしろにし、関係を断ち、神から離れる方を選びました。これが、罪が生まれた理由です。恥が生まれ、恐れが起こり、そしていま、罪悪感が生まれました。神が園に歩いて来られたとき、アダムとエバはどこにいましたか?彼らはどこでしたか?彼らは隠れていた。すべてが素晴らしいとき、隠れることはありません。すべてが美しく完璧であれば、あなたは隠れません。人が隠すものとは?秘密。
他人に知られたくないもの。すべて、秘密であるものは…、ところで念のために言うと、それはまた、“臭う”のです。興味深いことに、人は、神との交わりを好まなかった。そして、もちろん人間のこの大きな墮落の後、神は、罪人を贖うために御子を送ってくださったのです。人類に対する希望は、他には何もなかった。しかし完璧な方、神の御子が流された血を通して贖うために、神は再び、ただ人を造るよりも、ずっと大きな形でその愛を差し出されました。それがいま、神ご自身の御子と与えられると…。正直言えば、私はそれについて考えていました。どれほど私が皆さんのことを愛していても…、私は本当に愛しています。私は、あなたのために私のひとり息子は与えません。すみません。でも神は、それをされました。それほど神は、あなたを愛しておられるのです。そして聖霊が降りてきて、贖われた人々を満たしました。知識と、神の道の理解、指導、慰め、希望によって。主が、私たちを連れて行ってくださるまで。もちろん、神は御子を通して贖われた人を、彼と一緒に連れて行くことを約束されました。そして神は、地球を支配し、裁くために、神の御子と、彼が贖われた者たちを戻されます。もちろん、神は全世界を裁かれます。そして、彼は

後に、すべてのものを新しくされます。ご覧のとおり、人々は理解していませんが、私たちの行動のすべて、私たちの発言のすべて、私たちの心の意図のすべてが、天に記録されています。美しく大きな何か、テープレコーダー…、たぶん、いまは違って、より技術的に高度な物かもしれません。MP3かなにか。よく分かりませんが。ともかく、すべてが記録されています。そして聖書は、天の書物について説明しています。それらの書物には、この世に生まれたすべての人の名前、そして、その人の行動のすべて、それとその人の発言の一つ一つ、そして、その人が心や思いの中に抱いたすべての物が記録されています。時に、何かを言う必要はなく、時には、ただ考えるだけかもしれません。しかし、神は知っておられます。イエスは、ただ考えていた人々に、何回答えられたでしょうか。しかも彼は、彼らが何を考えているかを、正確にご存じでした。

さて、聖書の中で最も古い本は、創世記ではありません。創世記は、もちろん最も古い出来事について話していますが、しかし、それはモーセによって書かれました。そしてモーセは、族長たちの後にやって来ました。モーセは彼らを描写していますが、しかし最も古い書は、族長たちの時代にいた人によって書かれたもので、ヨブ記です。ところで、ヨブ記が書かれたのは、紀元前1900年から1700年の間だと推測されています。さて、およそ4000年前だとして、ヨブは、モーセが知っていたこと、ダビデが知っていたことを知っていました。イエスが言ったこと、パウロが知っていたことを。彼は、同じことを知っていました。彼は、最終的に裁きがあることを知っていました。ヨブは、19章で述べています。そして、ヨブを見てください。ヨブは美しく、素晴らしい主のしもべでした。しかし彼は試練を受け、そして、彼は試みられました。神は、サタンにヨブを試すことを認めるほど、十分な自信を持っていました。ヨブは無実だったからです。そしてヨブは、そのために神を憎む代わりに、彼が経験する苦難のために、神に対して怒る代わりに、彼は何と言いましたか? 「私は知っている。私を贖う方は生きておられる」と彼は言います。つまり、「私は生ける神に仕えている。だから私は失望していない」それから彼は言います。

後の日に、ちりの上に立たれることを。(ヨブ19章25節)

つまり、私の神は、いつか地球に戻ってこられる、と。そして、ちりの上に立たれる。ヨブはそう言いました。「私の皮が、このようにはぎとられて後…」文字通り、たとえ私が死んだとしても、私は、私の肉から神を見る。(ヨブ19章26節) ヨブは言いました。「いま生きていようと死んでいようと関係ない。最終的に、あなたは神の御前に立つのだ」

私の肉から神を見る。この方を私は自分自身で見る。(ヨブ19章27節)

あなたが信者なら、それはあなたと主との個人的な出会いです。「私の目がこれを見る。他の者の目ではない」これは、イエスに祈るためにマリアに祈り、神に祈るために、イエスに祈ることではありません。違います! 直接的で個人的な関係があり、他の関係ではありません。私はだれかに祈るために、だれかに祈り、だれかに話しかけることはありません。「私の目がこれを見る。ほかの者の目ではない。私の内なる思いは、私の内で絶え入るばかりだ。もし、あなたがたが事の原因を私のうちに見つけて、『彼をどのようにして追い詰めようか』と言うなら…」彼が言ったことを見てください。彼はすべての罪人に、すべての人々に言ったのです。彼の言葉を見てください。

あなたがたは剣を恐れよ。その剣は刑罰の憤りだから。これによって、あなたがたはさばきのあることを知るだろう。(ヨブ19章27節から28節)

ヨブは言います。「誰も裁きからのがれることはできない」あなたが死ぬと裁きはまず起こり、そして、それは起こるべき最も重要なことです。次に来るのは、それです。基本的には、あなたは裁きを待つのです。だから、ヘブル書の9章27節は言うのです。

人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている。(ヘブル9章27節)

しかし、その後、これは裁きです。この後、死後、裁きがあります。見てください。死ぬことが定められている。人は死にます。皆さん、いま、指で自分をつねってみてください。あなたは今、生きています。しかし10年前の自分の写真を見てください。あなたは死にかけている。ほら、そういうものです。罪が世に入り、腐敗が来て、死が来ました。私たちは文字通り、時には遅く、時には、より早く、しかし私たちは死にゆく過程にあるのです。人は一度死ぬことが定められています。

さて、ありがたいことに、携挙が起こるときに、私たちの中には、まだ死んでいない人もいるでしょう。私たちは生きて連れて行かれるのです。うまくいけば、私たち全員が死ぬ必要はありません。しかし、あなたが明日死んだ場合?その後、裁きがあります。信者には、一度裁きがあります。それは天国です。それは、キリストの裁きの御座です。それは地獄とは何の関係もなく、そして、それは罰とは何の関係もなく、それは報酬と栄冠に関係があります。それは私たちが受け取り、そして、後で主にお返しできるものに関係しています。しかし、その後、不信者には?彼らに何が起こるのか?まだ裁きがあります。彼らの裁きは千年王国の後まで遅れます。神が、地球の歴史の中で死んだすべての人々を世界中から呼び出すとき、彼らは皆、大いなる白い裁きの御座の前に立つのです。そして書が開かれる、と聖書は言います。第1サムエル2章6節で、男の子を与えてくださいと神に祈っていたハンナ…、彼女は不妊でした。覚えていますか?彼女は言いました。

主は殺し、また生かし、よみに下し、また上げる。(第1サムエル2章6節)

ハンナは、旧約聖書のほかのすべてのユダヤ人のように知り、信じていたのです。死後に何かがある。それで終わりではありません。神は、裁きのために私たちを生き返らせます。それは間違いありません。死後の世界があるのです。何かが起こります。皆さん、それを良く理解しています。預言者ダニエル、終末の出来事における旧約聖書の“旗艦”は言いました。

その時、あなたの国の人々を守る大いなる君、(大天使)ミカエルが立ち上がる。国が始まって以来、その時まで、かつてなかったほどの苦難の時が来る。(ダニエル12章1節)

彼は大患難について話しています。イスラエルでは「ヤコブの苦難」として知られています。預言者エゼキヤが、30章で描写しています。そして彼は言います。「国が始まって以来、その時まで、かつてなかったほどの苦難の時が来る」そして彼は言いました。「しかし、その時、あなたの民で、その書にしるされている者はすべて救われる」

しかし、その時、あなたの民で、(何ですか?)あの書にしるされている者は…。(ダニエル12章1節)

そして…、さて、彼は何の書について話していますか?天国には2種類の書物があります。たくさんの書が積み上げられていて、その中に記録されているのは、すべての人、どこでも彼らの行為のすべて。そして、小羊のいのちの書があって、すべての信者が今、その書に加えられています。おそらく、それはインクでさえなく、血でしょう。そして、それらを消すことはできません。これは別物です。彼は言います。

あの書にしるされている者はすべて救われる。地のちりの中に眠っている者のうち、(死んだ人たち)多くの者が目をさます。あるものは永遠のいのちに、ある者はそしりと永遠の忌みに。思慮深い人々は天空の輝きのように輝き…。(ダニエル12章1節から3節)

聞いてください。ダニエルは、こう言っているのです。「今日のあなたの生き方が重要なのだ。誰を信頼し、何を信じるかが重要だ」なぜなら、復活が起こる時、復活には2つのタイプがあります。信者の復活があり、

そして、あなたが賢ければ、あなたは輝くのです。あなたが賢いなら…。ところで、あなたはここで輝くのですよ? 「あなたは世の光です」とイエスは言いました。

思慮深い人々は大空の輝きのように輝き、多くの者を義とした者は、世々限りなく、星のようになる。

(ダニエル12章3節)

ほら。信者であることだけではありません。あなたを輝かせるもの、あなたを明るくするもの、それはまた、あなたが他の人を義へと導くことでもあります。信者は休眠することはできません。消極的ではいられません。信者は、ただじっと座って勉強するのではなく、聖霊に力を受けて、出て行き、宣べ伝えなければなりません。神は、選ばれた人だけを宣べ伝えるために召すとは言っていません。違います。私たちは皆、私たちがやみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方の素晴らしいみわざを、宣言しなければなりません。彼は言いました。

世々限りなく、星のようになる。(ダニエル12章3節)

イエスは、私たちが死んだ後に何が起こるか、という問題に対処しなければなりません。イエスの時代、ユダヤ人コミュニティには、2つの主要なグループがありました。祭司の子孫であったサドカイ派がいて、彼らは貴族の人々、裕福な人々のグループでした。政権と非常に堅く結びついていて、彼らは非常に柔軟な人々でした。「我々が生きる時代と季節に合わせて、神の御言葉を曲げよう」覚えていますか? 昨日、私たちは現代の時代に合わせるために、神の御言葉をねじ曲げている教会があることを見ましたね? それがサドカイ派がしていたことです。「独断的になるのはやめよう!」ところで、彼らは言っていたのです。

「いいか、人生は一度限りだ。せっかく、この世に生まれたのだから、それを最大限に活かそう」

「YOLO: You Only Live Once.」 (たった一度の人生だ!)

「カルペ・ディエム: その日を生きろ!」

彼らは、死からの復活を信じませんでした。だから彼らは、“sad-u-see” (見るに痛々しい) サドカイ派だったのです…。忘れてください。

しかし、それからパリサイ人がいました。パリサイ人は厳格な正統派ユダヤ人で、律法とその成就を信じていました。だから、「律法が復活があると告げているのなら、復活がなければならぬ」パリサイ人は非常に宗教的な人々でした。「それが復活と言うなら、復活があるのだ! はい!」面白いことに、罨を仕掛けてイエスを引っ掛けようとしたのは、サドカイ派でした。だから、ルカ20章27節から38節で、

ところが、復活があることを否定するサドカイ人のある者たちが、イエスのところに来て、質問して、こう言った。「先生。モーセは私たちのためにこう書いています。『もし、ある人の兄が妻をめぐって死に、しかも子がなかったばあいは、その弟はその女を妻にして、兄のために子をもうけなければならない。』」ところで、七人の兄弟がいました。… (ルカ20章27節から29節)

見てください。本当に不合理で、バカバカしい。彼らは自分たちの“妄想の海”を漂っています。「七人の兄弟がいて、皆、同じ女性と結婚したが、皆、子どもがなかった」そんなこと、あり得ない。しかし、彼らは見たかった。そうしたら、

長男は妻をめぐりましたが、子どもがなくて死にました。次男も、三男もその女をめぐり、七人とも同じようにして、子どもを残さず死にました。あとで、その女も死にました。すると復活の際、[復活があると言うなら]その女はだれの妻になるでしょうか。七人ともその女を妻としたのですが。

(ルカ20章29節から33節)

彼らはまるで、こんなふうで…

イエスは彼らに言われた。『この世の子らは、めとったり、とついだりするが…』 (ルカ20章34節)

“この世の子ら”とは、私たちが死後に到達する前のことです。

次の世に入るのにふさわしく、死人の中から復活するのにふさわしい、と認められる人たちは、めとることも、とつぐこともありません。彼らはもう死ぬことができないからです。(ルカ20章27節から36節)

だから、もし、あなたが復活しているなら、もし、あなたが死ぬと…。あなたが死んだとしましょう。良いですね?あなたは、信者として死んだ。今から私は、皆が持っている、いくつかの神話を粉砕するのは分かっています。「私は天国であなたに会うわ!」「私たちは再び結婚するのよ!」皆さん、イエスご自身が言われます。天国では、明らかに死んだ後、あなたは、もう死ぬことはできません。

彼らは御使いのようであり、また、復活の子として神の子どもだからです。それに、死人がよみがえることについては、モーセも柴の個所で、主を、『アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神』と呼んで、このことを示しました。神は死んだ者の神ではありません。生きている者の神です。(ルカ20章36節から38節)

しかし天国では結婚せず、子どもを持ちません。妻をめぐって争いません。なのに、あなたはいったい何を言っているのか?信者が天国でどんなものになるのかを、あなたが理解してさえいけば、あなたは、私に、こんな質問をしていないでしょう。

ですから、天にあるものにかたどったものは、これらのものによってきよめられる必要がありました。しかし天にあるもの自体は、これよりもさらにすぐれたいけにえで、きよめられなければなりません。キリストは、本物の模型にすぎない、手で造った聖所に入られたのではなく、天そのものに入られたのです。そして、今、私たちのために神の御前に現れてくださるのです。それも、年ごとに自分の血でない血を携えて聖所に入る大祭司とは違って、キリストは、ご自分を幾度もささげることにはなさいません。もしそうでなかったら、世の初めから幾度も苦難を受けなければならなかったでしょう。しかしキリストは、ただ一度、今の世の終わりに、ご自身をいけにえとして罪を取り除くために、来られたのです。そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっているように、キリストも、多くの人の罪を負うために一度、ご自身をささげられましたが、二度目は、罪を負うためではなく、彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られるのです。(ヘブル9章23節から28節)

これは、聖書の最も重要な部分の1つです。考えてみてください。ヘブル人への手紙の筆者は言います。キリストが来て、彼が死んで、彼は彼の血を流された。それは毎日、毎週、毎月、毎年行われる、すべての犠牲よりも、はるかに優れている。しかし、その後、彼は言いました。皆さん、

キリストも、多くの人の罪を負うために一度、ご自身をささげられましたが、二度目は、…

(ヘブル9章28節)

「現れる」と言ってください。「現れ」は、戻って来て滞在するのとは違います。彼はどこかに「現れる」のです。そして、彼は何に「現れる」のですか?熱心に彼を待っている人に。イエスを待っていない本当の信者などあり得ますか?彼が言っていることが分かりましたか?もし、あなたが自分自身をクリスチャンと呼び、それでいて、イエスが来ることに興味がないなら、私は、あなたが何の書を信じているか分かりません。彼は言います。

二度目は、罪を負うためではなく、彼を待ち望んでいる人々の救いのために来られるのです。

(ヘブル9章28節)

彼は、すでに罪に対処されました。今回は何のためですか?それは、この世からの、あなたの体の救いです。彼は、あなたを連れて行くために戻って来られるのです。そして、彼はだれを連れて行かれるのでしょうか?熱心に待っている人。あなたは熱心に彼を待っていますか?そうすれば、あなたは取り去られます。しかし、あなたが[グーグー/いびきの音]こんなふうなら…、“イエスや聖書や、あれもこれもどうでもよい。私は、お金、お金、お金を稼ぐことが大事なんだ!それに名声や何かを持っていることが大事なんだ!”申し訳ありませんが、あなたは、あの5人の乙女のひとりになるでしょう。彼女たちは、自分のともしびに油を持っていなかったために残されました。では、世界でどれほどの人が、数ではなく、世代的に…。私が言っているのは、時代の話です。「旧約聖書」の人々がいます。創造の最初からずっと。その後、「新約聖書」があります。1世紀。その後、「教会時代」があります。過去2000年。そして、私たちがここから出るとき、7年の「大患難」があります。そして、私たちがイエスと一緒に統治するために戻って来た後、千年王国があります。千年王国の後には、それで終わりです。神は、すべてのものを新しくされます。あなたがあちらで会う、これらの人々はすべて、彼らには皆、死後、彼らのために指定された特定の場所があるのです。準備はいいですか。では、「だれが、どこに行くのか?」それがメッセージです。

最初の誕生。私たちは皆、水から生まれます。女性は赤ん坊^{やど}を宿し、基本的に歩くスイミングプールです。赤ん坊は泳いでいます。水があります。そして、それはいつですか?何ですか?赤ん坊が生まれる準備ができていて、主な兆候は?破水。水は、もうありません。彼は泳げない。出かける時間です。だから、水から生まれるのは、人の自然な誕生です。信じられないかもしれませんが、赤ちゃんは、かわいくて無邪気ですが、彼らはすでに罪を持って生まれています。「なんてことを言うんだ!」私が言ったのではありません。ダビデ王が、そう言ったのです。皆さん、子どもたちが嘘をついたり、欺いたり、操作したり、あらゆる事をするのを非常によくご存じです。もしも?彼らは罪ある者として生まれました。創世記6章は告げています。罪が世に入った瞬間から、世はとても悪くなったのです。

主は、地上に人の悪が増大し、その心に測ることがみな、いつも悪いことだけに傾くのをご覧になった。それで主は、地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められた。(創世記6章5節から6節)

聖書は詩篇51編で告げています。預言者ナタンが、バテ・シェバとおかしたダビデの罪を彼の目の前で指摘した時です。

ああ、私は咎ある者として生まれ、罪ある者として母は私をみごもりました。(詩篇51編5節)

私は、すでに罪を持って生まれています。ローマ書5章は、しばしば普遍主義者によって文脈から取り除かれています。ローマ5章12節は告げています。

そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界にはいり、罪によって死がはいり、こうして死が全人類に広がったのと同様に、一一それというのも全人類が罪を犯したからです。(ローマ5章12節)

すべての人が罪をおかし、すべての人が…。有効期限なしで生まれた赤ちゃんを見たことがありますか?500年、800年と生きるために生まれた赤ちゃん?いいえ。なぜ私たちは、お互いに120歳まで望むのですか?おそらく、それが最高齢だからでしょう。有効期限があります。罪は平均年齢を、ずっと下げました。ところでダビデの時代には、わずか40歳近くまで下がったのです。その後、医学、現代技術のおかげで、私たちは今、80~85歳まで生きようになりましたが、それだけです。すべての人が罪をおかしました。エペソ人への手紙2章。

あなたがたは、自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、そのころは、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている霊に従って、歩んでいました。私たちがみな、かつては不従順の子らの中にあって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。(エペソ2:1-3)

ほら、私たちはすべての不信者と変わらず、彼らと同じでした。使徒パウロは、「私は罪人の頭だ」と言います。私は間違いなく完璧な人間ではありません。今でも、あなたがこの体を持っている限り、覚えておいてください。あなたがこの体を持っている限り、罪をおかさないということはできません。ただ、罪を避けて、きよい生活を送ることは可能です。自分自身を聖別し、適切な仲間、適切な人たちと共にいて、正しいことを聞いて、正しいものを見て、正しいものを読むことによって。つまり、あきらかに私たちが消費するものは、基本的に、私たちの人格に反映します。しかし、私たち全員が、元はそのようであったことを忘れないでいましょう。聖書はヨハネ3章16節から18節で告げています。

神は、実にそのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。(ヨハネ3章16節)

しかし、その後、彼は言います。

神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。(ヨハネ3章16節から17節)

それは美しいものです。イエスは、彼の初臨の時、裁きに来たのではありません。しかし、彼の再臨では裁きに来られます。初臨の時、彼は救いに来ました。しかし…。18節も読みましょうか? 18節は、続けてこう言っていますから。

御子を信じる者はさばかれない。信じない者は、神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれています。(ヨハネ3章18節)

なぜなら、私たち全員が罪を持って生まれたから、私たちはみな、すでに罪に定められています。あなたがキリストを信じた瞬間、あなたは「罪の定め」から出されて、そして、あなたは今、「罪に定められる事はない」のです。では、あなたがイエスを信じていない場合は? あなたは、すでに裁かれています。それは、「あなたはきっと、恐ろしいことを行うだろう。その時、あなたは裁かれる」というものではありません。いいえ! あなたは、すでに罪を持って生まれました。あなたは、すでに罪に定められています。イエス・キリストへの信仰だけが、死刑囚の収容所からあなたを連れ出すのです。そして、あなたは裁かれなくなるのです。なぜなら、

“信じない者は”神のひとり子の御名を信じなかったので、すでにさばかれています。(ヨハネ3章18節)

ということで、最初の死があって、それを避けることはできません。そして次に…、最初の誕生でした。すみません。次に、第2の誕生があります。さて昨日、私たちはエドウィン牧師の50歳の誕生日を祝いました。美しいです。しかし、私たちは皆、別の誕生日を持っていないければなりません。すべての人は、水から生まれます。そして、イエスはニコデモに尋ねました。“ニコデモ、あなたはイスラエルの教師です。あなたは賢い人です。水の誕生だけでは十分ではないことを、あなたは知らないのですか? あなたは知らないのですか? 人は…”

聞いてください。忘れもしません。1998年、私はフィリピンを初めて訪れました。1998年です。私は25歳でハンサムな少年でした。それまでです。その後は下り坂ですが。その時、私は道である人に会いました。私は聖書を引用したと思います。すると、彼は言いました。

「あなたはカトリック教徒? それとも“ボーンアゲイン”(新生した人)?」

そこで、私はこんなふうにな…、「これらはオプションなの? メニューの?」

さて、彼が言ったことによると、「はい」。「ええ。ボーンアゲイン(新生した人たちは)、聖書を非常によく知っています」

ちょっと待ってください。ボーンアゲイン(新生した人)は、別の宗教だと思っているのですか? つまり、カトリック教徒がいて、ボーンアゲイン(新生した人)がいる、と? ボーンアゲイン(新生)教会があり、

カトリック教徒があると? いいえ、いいえ、だれもがボーンアゲイン (新生) することができます。だれもがボーンアゲイン (新生) するべきです。あなたがイスラム教徒なら、あなたはボーンアゲイン (新生) するべきです。あなたがカトリック教徒なら、あなたはボーンアゲイン (新生) するべきです。あなたがユダヤ人なら、あなたはボーンアゲイン (新生) するべきです。あなたがヒンズー教徒なら、あなたはボーンアゲイン (新生) するべきです。カトリック教徒か、ボーンアゲイン (新生) か、ではありません。ボーンアゲイン (新生) か、ボーンアゲイン (新生) か、です。もしあなたがボーンアゲイン (新生) していないなら、それまでです。

神の王国に入ることができるクリスチャンの種類はたった1つで、それはボーンアゲイン (新生) した人です。選択することはできません。ああ、カトリック、ボーンアゲイン (新生した人)、正教会、その他? これはオプションではありません。メニューバーではありません。彼にそれを尋ねられたとき、私はショックを受けました。しかし、その後、私は気づいたのです。

「なんてこった!“ボーンアゲイン (新生した人)”という言葉は、今や造語になっているんだ! まるでオプションであるかのように」

御霊による2番目の誕生があります。しかし、罪を持っていないわけではありません。あなたの罪は今、赦されています。あなたの罪は今、取り除かれ、忘れ去られています。あなたの罪は今、もはやあなたを非難していません。あなたは御霊から生まれました。それはあなたが、新しいいのちを持っていることを意味します。あなたは新しく造られた者です。それは、あなたの考えが新しくなったことを意味します。古いものは過ぎ去りました。あなたは、古い友人とつるむべきではありません。あなたは、古いハットリを続けるべきではありません。古いものを見るべきではない。古いものを読むべきではない。古い事ごとに耳を傾けたり、関わるべきではありません。皆さん、もしあなたがたが、昔はバーやディスコ、クラブでたむろしていたなら、そこからどこへたどり着くのか、あなたははっきりと知っています。ボーンアゲイン (新生した人)、御霊に満たされた者として、あなたは本当に、それがあなたが今やるべきことだと思いませんか? つまり、あなたは上から新しく誕生したのです。「でも、私はクールになりたい」「私は他の人のようになりたい」申し訳ないが、私たちは世の者とは違います。私たちは世に愛されるものではありません。私たちはそうではなく…。分かりますか。罪は赦されたのです。ヨハネ5章24節。

まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からのいのちに移っているのです。

(ヨハネ5章24節)

美しい。ヨハネ4章。

イエスは彼女 (サマリア人の女性) に言われた。『わたしの言うことを信じなさい。あなたがたが父を礼拝するのは、この山でもなく、エルサレムでもない、そういう時が来ます。救いはユダヤ人から出るのでから、わたしたちは知って礼拝していますが、あなたがたは知らないで礼拝しています。』

(ヨハネ4章21節から22節)

ダバオのアポロ・キボロイからではありません。彼は神の子ではありません。ほかに救世主はいません。ほかに主はいません。定めの子は、ほかにいません。そんなものはありません。「救いはユダヤ人から出る」と彼は言いました。しかし…、そうは言ったが、確かに彼はユダの家から来なければなりません。とは言っても、「女の人よ。(わたしの言うことを聞きなさい) …時が来ます。今がその時です」。女の人よ。この、わたした。わたしは、あなたの前に立っている。

…真の礼拝者たちが霊とまことによって父を礼拝する時が来ます。今がその時です。父はこのような人々を礼拝者として求めておられるからです。(ヨハネ4章23節)

御父は、神殿、または教会、シナゴグ、何であれ、あなたがそのような場所に行くことに興味がありません。1日5回、1日3回、ロザリオを回して聖母マリアへの祈りを50回行うとか、どんな宗教的な行為も、御

父が望んでいるものではありません。彼は人々が霊とまこと^カで主を崇拝することを望んでおられます。そして、彼はメシアとしてだけでなく、ユダヤ人として言われます。見てください。サマリア人は、Aと言います。「A」と言ってください。私たちユダヤ人も、「B」と言います。しかし、私たちは両方とも間違っています。宗教は答えではありません。「霊とまこと」だと彼は言います。第2コリント。「だれでもキリストのうちにあるなら…」“教会の内”ではなく、モスクでもなく、シナゴグでもありません。

だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。(第2コリント5章17節)

テトス3章

しかし、私たちの救い主である神のいつくしみと、人への愛とが現れたとき、神は、私たちが行った義のわざによってではなく、ご自分のあわれみのゆえに、私たちを救ってくださいました。

(テトス3章4節から5節)

パウロは宗教的な人間の頭^{かしら}で、彼は正確に知っています。彼は、私たちはそれらのすべての業を行ったと言います。

神は…ご自分のあわれみによって、私たちを救ってくださいました。この救いは、聖霊によって新しく生まれさせ、新たに造りかえる洗いを通して実現したのです。(テトス3章5節)

ということで、第1の誕生について話しました。そして、私たちは第2の誕生についても話しました。第2の誕生の方が、ずっと重要です。しかし、第1の誕生を通して生まれなければ、あなたは第2の誕生を持つことができません。ボーンアゲイン(新生)するには、生きていなければならない。もしも?あなたは肉から生まれ、そして、あなたは御霊から生まれなければなりません。しかし、その後、最初の死が来ます。第一の死は、信者として、私たちが心配すべきことは何もありません。そして、私があなたに覚えておいて欲しいこと、これを心に留めてください。私たちは信者として、死を心配したり、恐れるべきではありません。あなたは、それを唱える必要があります。死はそのトゲを失った。死。死の定義は何ですか?いのちからの分離。私たちはだれを信じ、だれの中にいるのでしょうか?キリスト。キリストは誰ですか?彼は唯一の、何?道、真理、いのち。あなたがキリストにいるとき、もはや死が、いのちから切り離すことはないのです。死は、あなたが持って生まれた罪の結果に過ぎません。それだけです。それは罪の自然な結果です。ところで、不信者のために私は言いたい。

「からだを殺しても、たましいを殺せない人たちなどを恐れてはなりません。そんなものより、たましいもからだも、ともにゲヘナで滅ぼすことのできる方を恐れなさい。」(マタイ10章28節)

「地獄」という言葉は聖書にあります。「地獄」という言葉は、不信者である人々に関する文脈の中で聖書にあります。彼らは、その個所と、彼らの不信の結果であるその場を認識する必要があります。皆さんに知ってほしいのは、世界中の教会が「罪」と言うのを控えて、「悔い改め」という言葉を使うのを控えて、そして地獄について話すのを控えて、「地獄はない」と言っています。ちなみに、「地獄はない」と言うことで、「天国もない」と言っているのです。「天国がない」と言うことで、その後は何も無い、と言っているのです。だから、それなら今を最大限に楽しもう!興味深いです。なぜなら…、ルカ16章は、こう告げています。つまり、貧しい人が死んだのです。ルカ16章は、素晴らしい、素晴らしい物語であり、それはたとえ話ではありません。ラザロは彼の名前で言及されているので、それは実話です。

さて、この貧乏人は死んで、御使いたちによってアブラハムのふところに連れて行かれた。

(ルカ16章22節)

アブラハムのふところ。

金持ちも死んで葬られた。(ルカ16章22節)

これを見てください。信者は、御使いが彼を運びます。そして不信者は、ただちに[ビュン]と死に行く。それが興味深いことに、見てください。不信者はどこにいましたか? 場所では、どこに? ハデスで、苦しみの中にいました。ヘブル語でハデスは、「シュオル」。そこはイエスが死んで復活する前の、旧約聖書のすべての人々が行く場所です。そして神を信じ、それが義とみなされた人々は、“アブラハムのふところ”と呼ばれる1つの場所にいました。そして、不信者で邪悪であった人々は、“苦しみ場所”と呼ばれる場所にいました。しかし、これはほぼ同じ場所で、仕切りがありました。分かりますか。ここ(苦しみ場所)から、ここ(アブラハムのふところ)が見えました。見えたのです。なぜなら、ほら、彼は言っています。

その金持ちは、ハデスで苦しみながら目を上げると、アブラハムが、はるかかなたに見えた。しかも、そのふところにラザロが見えた。(ルカ16章23節)

彼には、それが見えました。しかし、彼はそこに行くことができませんでした。イエスが死んで復活する前に、すべての人々はハデスに行きました。ハデスは分断されていました。苦しみ場所、そしてアブラハムのふところ。それは、ただの裁きの待機場、それだけです。ハデスでボーンアゲイン(新生)することができるとは、悔い改める機会が、もう一度あるわけではありません。そのほか、浄罪界じょうざいかいが示唆している、あらゆるものも、全く違います。今日は救いの日です。なぜなら、その時(死後)、あなたは自分を救うことができませんから。ほら、彼はそれを知っていました。彼が、「なあ、ちゃんとして。信じて!」と家族に伝えたいと思ったとき、彼は戻るができず、彼は何も言えなかったのです。ヨハネ8章24節。

それでわたしは、あなたがたが自分の罪の中で死ぬと、あなたがたに言ったのです。もしあなたがたが、わたしのことを信じなければ、あなたがたは自分の罪の中で死ぬのです。(ヨハネ8章24節)

イエスは言われました。見てください。モーセが言ったように、「私は、きょう、あなたの前に置く。生と死。善と悪。」彼は言いました。「あなたがたは、いのちを選びなさい」

私は、きょう、あなたがたに対して天と地とを、証人に立てる。私は、いのちと死、祝福とのろいを、あなたの前に置く。あなたはいのちを選びなさい。(申命記30章18節)

そして、イエスは言われました。「わたしのことを信じなさい。そうすれば、あなたは死にません」このように信者にとっては…。良い盗人は、イエスに言いました。

イエスさま。あなたが御国の位にお着きになるときは、私を思い出してください(ルカ23章42節)

そして、イエスは彼に言われました。

まことに、あなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。(ルカ23章43節)

イエスの死と復活は、新しい時代の到来となり、すべての信者が即座に、主の臨在の御前に行くようになりました。それだけです。体は朽ちるでしょう。しかし、あなたのたましいは、すでにキリストと一緒にです。そういう事です。旧約聖書とは異なることを理解する必要があります。ヨハネ11章25節から26節。

イエスは、兄弟の死を嘆いていたマルタに言われました。

『わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は…』(ヨハネ11章25節)

ところで、彼は実際に携挙をほのめかしています。携挙は、イエスが来られる時ですから。キリストにおける死者はよみがえり、そして生きている私たちは、空中に引き上げられます。私たちは、一緒に雲の中で主にお会いします。携挙は、死んだ信者、そして生きている信者、両方のものです。いいですね?ということで、イエスの言葉を見てください。

わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも… (ヨハネ11章25節)

明日死ぬとしましょう。

…死んでも生きるのです。(ヨハネ11章25節)

あなたには復活があります。

また、(当時)生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。

(ヨハネ11章25節から26節)

ほら、決して死なない人たち、決して死を見ない人たちとは?携挙の時に生きている人たちです。神は、こんなことは言っておられません。「よし、ちょっと待って。列に並んで。わたしは、あなた方全員を殺して、そして、わたしは皆さん全員を復活させましょう」いいえ。死ぬ人は死に、主が彼らを復活させられるのです。そして生き残っている人たちは、たちまち雲の中に一挙に引き上げられます。しかし、主は彼女に尋ねました。「ほらマルタ、わたしはこのすべてを言いました。しかし、あなたは信じますか?」

イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか。」

(ヨハネ11章25節から26節)

わかりますか?第1テサロニケ4章は、携挙について語っています。彼は携挙について話していますが、世界中の教会の90%~95%は、携挙を信じていません。イエスはまた、彼らにそれを聞いておられます。「あなたは、これを信じますか?」「いいえ、私たちは信じません」ああ、あなたは、何の問題もなく、主が海を分けたことを信じ、主がヨルダン川を巻き戻し、主が獅子の穴でダニエルを保っておられたことも信じるのに、しかし、携挙されることに問題があるのですか?もしそれが、あなたの問題なら…。ところで、エノクは携挙され、エリヤは携挙されました。ところで携挙は上向きだけではなく、横向きもあります。伝道者のピリポが携挙されたことを知っていましたか?彼がエチオピアの宦官にバプテスマを施したとき、エチオピアの宦官が自ら出てきたとき、ピリポは、いなくなりました。聖書は、御霊が彼を取ったと言います。そして、ギリシャ語の「ハルパゾ (Harupazō)」という言葉は、そこにもあります。シュツといなくなりました。ところで、エチオピア人は家に帰って「私は信じない!」とは言っていません。彼は喜びました。彼は幸せでした。彼は信じていたのです。わかりますか?新生して2分の信者は、信じています。40年の信者、50年の信者(信仰歴40~50年の信者)は携挙を信じていません。なんと悲しい。ピリピ人への手紙1章21節から23節。

私にとっては、生きることはキリスト、死ぬこともまた益です。(ピリピ1章21節)

私たちは、死を恐れるべきではない。

しかし、もしこの肉体的いのちが続くとしたら、私の働きが豊かな実を結ぶことになるので、どちらを選んだらよいか、私には分かりません。(ピリピ1章22節)

パウロは言います。「ほら、私は死と生について考えています。私が生きていれば、私の人生には実りがあることを知っています」けれども、「私がどちらを選ぶかは、あなたがたには言いません。両方もが素晴らしい選択肢であることを知っているから」私は言います。

私は、その二つのものの間に板ばさみとなっています。私の願いは、世を去ってキリストとともにいることです。(ピリピ1章21節から23節)

パウロは知っていたのです。私たち信者のためには、肉体を離れることは即座に神の御前に行くことを。

…肉体を離れて、主のみもとにいる… (第2コリント5章8節)

彼が、そう言ったのです。「こっちの方が、はるかに良い」しかし、それは誰もが、またはほとんどの人が経験する最初の死であって、その後、第二の死があります。そして第二の死は、最終的なものです。第二の死は究極です。第二の死は永遠です。第二の死は、あなたが絶対に関わりたくないものです。第二の死は、不信者のために定められたものです。彼らが復活した後、千年王国の終わりに、彼らは、彼らの行いのすべてに対して、ずっと裁かれるのです。それが第二の死です。ところで第二の死には、死がありません。

「ちょっと待って、それは第二の死でしょう」いいえ、いいえ、それは第二の死と呼ばれていますが、しかし、それは正確には死ではありません。それは実際に生、火の池の中で。聖書は、死、実際の死と、そしてハデスが火の池に投げ込まれる、と告げています。ハデスはもう必要ありません。もう、誰も裁きを待っていません。それまでです。おしまいです。裁きは終わり、死とハデスは投げられた。死は、生命の源である神からの断絶です。ハデスは、最初の復活を待っている、すべての死んだ人々の一時的な住居です。もちろん、私は不信者について話しています。もちろん、そのハデスには、私が言ったように、“アブラハムのふところ”があります。そして、苦しみの場所。私たちは、それについても話しました。ルカ16章に戻りましょう。

ある金持ちがいた。いつも紫の衣や細布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。ところが、その門前にラザロという全身おどきの貧乏人が寝ていて、金持ちの食卓から落ちる物で腹を満たしたいと思っていた。犬もやって来ては、彼のおどきをなめていた。

さて、この貧乏人は死んで、御使いたちによってアブラハムのふところに連れて行かれた。金持ちも死んで葬られた。その金持ちは、ハデスで苦しみながら目を上げると、アブラハムが、はるかかなたに見えた。しかも、そのふところにラザロが見えた。彼は叫んで言った。

『父アブラハムさま。私をあわれんでください。ラザロが指先を水に浸して私の舌を冷やすように、ラザロをよこしてください。私はこの炎の中で、苦しくてたまりません。』

アブラハムは言った。『子よ。思い出してみなさい。おまえは生きている間、良い物を受け、ラザロは生きている間、悪い物を受けいていました。しかし、今ここで彼は慰められ、おまえは苦しきもだえているのです。』(ルカ16章19節から25節)

ところで、これは「貧乏なのは素晴らしい。この世界で金持ちになるなんて、とんでもない」という話ではありません。問題は、心の状態です。それを理解しておいてください。そして、もちろん、

そればかりでなく、私たちとおまえたちの間には、大きな淵があります。ここからそちらへ渡ろうとしても、渡れないし、そこからこちらへ越えて来ることできないのです。』

彼は言った。『父よ。ではお願いします。ラザロを私の父の家に送ってください。私には兄弟が五人ありますが、彼らまでこんな苦しみの場所に来ることのないように、よく言い聞かせてください。』

しかしアブラハムは言った。『彼らには、モーセと預言者がいます。その言うことを聞くべきです。』

彼は言った。『いいえ、父アブラハム。もし、だれかが死んだ者の中から彼らのところに行ってやったら、彼らは悔い改めるに違いありません。』

アブラハムは彼に言った。『もしモーセと預言者との教えに耳を傾けないのなら、たといだれかが死人の中から生き返っても、彼らは聞き入れはしない。』（ルカ16章26節から31節）

基本的に、ここで見るのは次の通りです。あなたには、キリストのために精一杯生きる時間が、生涯を通してあるのです。あなた自身の救いのために。キリストに従い、そして信者としての人生を生きることによって。信者として生きることが、より重要なのはこのためです。罪の生活を送りながら、最後の最後に、目を覚まして悔い改められるように目覚まし時計を置いておく? いいえ。あなたは、その生き方を通して、自分自身を崩壊させているので、ある時点でその目覚まし時計を聞いても、あなたは鈍くなっています。だから、神は私たちに携挙の日を教えていないのです。だれも知らない。御子でさえも、御使いも知らない。彼らは携挙の日を知りません。私たちが、常に準備できているように。その背後には論理があります。もちろん、黙示録1章18節では、

生きている者である。わたしは死んだが、見よ、いつまでも生きている。

アーメン。

また、死とハデスとのかぎを持っている。（黙示録1章18節）

イエスは言われました。「見なさい。わたしは死とハデスのかぎを持っている」言い換えれば、あなたがわたしを信じるなら、あなたはハデスや死に関わらない。わたしを信じないなら? そこへ人々は行きますが、それは、いつまでですか? 裁きの日、ハデスと死が、火の池に投げ捨てられる時までです。だから、イエスは言われました。「見よ、わたしがそれだ」聖書の中で、何度私たちに對する警告があるか見てください。アブラハムが、何を金持ちに伝えようとしていたか、見てください。彼らが聖書を信じないなら、彼らは、自分は死から来たと言った男を信じると思いませんか? いいえ! 神は、彼らが信じることができるよう、彼らに聖書を与えました。黙示録20章、「海は…」千年王国の後です。

海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、その中にいる死者を出した。そして人々はおのこの自分の行いに応じてさばかれた。それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。
(黙示録20章13節から14節)

「第二の死とは、なんだろう?」それは、不信者がみな、火の池に投げ込まれます。それから言います。

(小羊の) いのちの書に名のしるされていない者はみな、この火の池に投げ込まれた。

(黙示録20章15節)

それが第二の死です。しかし、覚えていますか? 二つの復活があります。聖書は言います。

この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対しては、第二の死は、なんの力も持っていない。（黙示録20章6節）

言い換えれば、復活には2つのタイプがあって、信者の復活があり、そして、不信者の復活があります。それは同時ではありません。ヨハネ5章。

このことに驚いてはなりません。墓の中にいる者がみな、この声を聞いて出て来る時が来ます。

(ヨハネ5章28節)

これらは良いことをした人たちで、いのちの復活。そして悪を行った人々は、裁きの復活です。それは、まさにダニエルが12章で言ったことです。ヘブル人への手紙は言います。

そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている… (ヘブル9章27節)

ですから、キリストは一度多くの人の罪を負うために捧げられました。そして、熱心に彼を待っている人たちには、彼は二度目に現れますが、それは、罪とは別に贖いのためです。ということで、第一の復活があり、私たち全員が、これに参加すべきです。そして、第二の復活があります。第一の復活は、イエスご自身から始まりました。聖書は、彼が“眠った者の初穂に”なったと言います。なぜなら、地球の歴史の中で誰もいませんから。生まれて、生き、死に、死からよみがえり、二度と死ななかった人は、誰もいません。今、私たちが話しているこの瞬間まで、だれひとりとして、死に、復活し、そして生き続けた人はいません。分かりますか？私が話していることを理解していますか？したがって、イエスが初穂です。

しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。

(第1コリント15章20節)

イエスの直後に起こった復活は、まず、エルサレムの聖徒たちを含めて、聖書は告げています。彼が十字架につけられ、復活した直後に、人々が墓から復活しました。マタイ27章で、それについて語っています。

墓が開いて、眠っていた多くの聖徒たちのからだが生き返った。(マタイ27章52節)

そして、もちろん“教会時代の聖徒”がいます。第1テサロニケ、ヨハネ14章、そして第1コリント15章によると、私たちはみな、復活することが分かります。そして、もちろん携挙の時に、第1テサロニケを読むと、

眠った人々のことについては、兄弟たち、あなたがたに知らないでいてもらいたくありません。あなたがたが、他の望みのない人々のように悲しみに沈むことのないためです。私たちはイエスが死んで復活されたことを信じています。それならば、神はまたそのように、イエスにあって眠った人々をイエスといっしょに連れて来られるはずで

私たちは主のみことばのとおりに言いますが、主が再び来られるときまで生き残っている私たちが、死んでいる人々に優先するようなことは決してありません。主は、号令と、御使いのかしらの声と、神のラッパの響きのうちに、ご自身天から下って来られます。それからキリストにある死者が、まず初めによみがえり、次に、生き残っている私たちが、たちまち彼らといっしょに雲の中に一挙に引き上げられ、(ギリシャ語のハルパゾ: Harupazō) 空中で主と会うのです。このようにして、私たちは、いつまでも主とともにいることとなります。こういうわけですから、このことばをもって互いに慰め合いなさい。

(第1テサロニケ4章13節から18節)

まず第1に、それはイエスから始まりました。その後、イエスの時代のエルサレムの聖徒たち、そして携挙が来ると、キリストの死者のすべてが復活します。その後、大患難が始まり、そして大患難の前半を通して神はふたりの証人を送って、救いの証と神の御言葉を人々に伝えます。彼らはののしられ、殺されます。そして彼らは三日半の後に復活します。そして、彼らは神によって携挙され、取り去られます。

それから、わたしがわたしのふたりの証人に許すと、彼らは荒布を着て千二百六十日の間預言する。

(黙示録11章3節)

それは黙示録11章11節から12節にあります。

しかし、三日半の後、神から出たいのちの息が、彼らに入り、彼らが足で立ち上がったので、それを見ていた人々は非常に恐怖に襲われた。そのときふたりは、天から大きな声がして、「ここに上れ」と言うのを聞いた。そこで、彼らは雲に乗って天に上った。彼らの敵はそれを見た。(黙示録11章11節から12節)

その後、大患難の後半部分で、私たちは知っています。イスラエルの民が荒野にかくまわれます。その後、大患難の終わりにイエスが戻って来られると、イスラエルとほかの旧約聖書の聖徒が復活します。預言者イザヤ、預言者ダニエルは、皆、そのことを語りました。イザヤは知っていました。「私は復活する」イザヤは言いました。

あなたの死人は生き返り、私のなきがらはよみがえります。さめよ、喜び歌え。ちりに住む者よ。あなたの露は光の露。地は死者の霊を生き返らせます。(イザヤ26章19節)

そして、もちろん大患難時代の殉教者がいます。彼らも復活し、取り去られます。皆さんに時系列があることを示したいと思います。「復活の順番」の表を見てみましょう。これで皆さん、いつ誰が復活するのかが分かるでしょう。

「復活の順番」

	種類	いつ	だれ	聖書箇所
1	第1の復活	三日目	イエス・キリスト	マタイ28:1-7 マルコ16:1-11 ルカ24:1-12 ヨハネ20:1-18 第1コリント15:20
2	第1の復活	大患難の前	教会	ヨハネ14:3 第1テサロニケ4:13-18 第1コリント15:50-53
3	第1の復活	大患難の真ん中	ふたりの証人	黙示録11:11-12
4	第1の復活	大患難の終わり	旧約聖書の聖徒たち	ダニエル12:1-2 イザヤ26:19 エゼキエル37:13-14
5	第1の復活	千年王国が始まる時	患難期の殉教者	黙示録20:4-6
6	第2の復活	千年王国の終わり	不信者	黙示録20:11-15

第一の復活があります。そして、そのタイミング(いつ)、それと、だれ。そして、そのすべての聖句があります。念のために言っておきますと、よく注意してください。すべての第一の復活は、千年王国の前です。千年王国の後には、地球の歴史の中で、信じないで死んだ人々が、すべて復活します。聖書は言います。

また私は、多くの座を見た。彼らはその上にすわった。そしてさばきを行う権威が彼らに与えられた。また、私は、イエスのあかしと神のことばとのゆえに首をはねられた人たちのたましい…を見た。…

(黙示録20章4節)

そして、もちろん、

また私は、大きな白い御座と、そこに着座しておられる方を見た。地も天もその御前から逃げ去って、あとかたもなくなった。また私は、死んだ人々が、大きい者も、小さい者も御座の前に立っているのを見た。そして、数々の書物が開かれた。(覚えていますか?) また、別の一つの書物も開かれたが、それは、いのちの書であった。死んだ人々は、これらの書物に書きしるされているところに従って、自分の行いに応じてさばかれた。(黙示録20章11節から12節)

いのちの書ではありません。それを覚えておいてください。

海はその中にいる死者を出し、死もハデスも、その中にいる死者を出した。

覚えていますか? 死とハデスです。そしてもちろん、

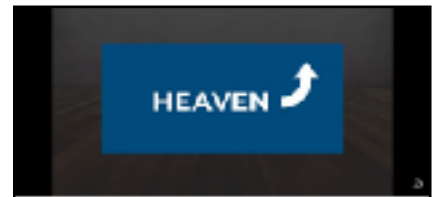
そして人々はおのおの自分の行いに応じてさばかれた。それから、死とハデスとは、火の池に投げ込まれた。これが第二の死である。(黙示録20章11節から15節)

火の池は、不信者のためであることが分かっています。死がそこにあるとき、あなたの第二の死、あなたの目的は火の池です。そこには立て札があるでしょう。『新しいエルサレムへ立ち入り禁止』という、非常に

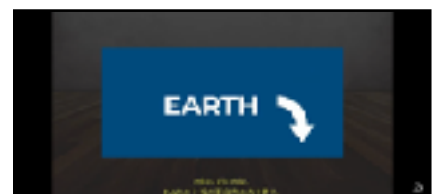


悲しい立て札。この、非常に悲しい立て札を見てください。おそらく、すべての不信者の人たちが見るでしょう。『立ち入り禁止』その立て札を出してくれますか? 『新エルサレムへ立ち入り禁止』そうです。しかし、信者にとっては、私たちが見る3つの立て札があります。1番目、私たちはまもなく天国に行く。だから、それは上向きです。『HEAVEN (天国)』

2番目は、7年後。地球に行く時間。『EARTH (地上)』あなたの上等の亜麻布の衣を着て、あなたの最高司令官の後ろで、あなたの白い馬に乗ります。そして、もちろん、あなたがここにいるとき、千年王国の後に、美しい立て札を見ます。『WELCOME TO THE NEW JERUSALEM (新しいエルサレムへようこそ)』



最後に1つ、お伝えします。それまでです。そのすべてが起こるまで、私たちに、まだここでの人生があります。そして、人生は簡単ではないことを知ってください。だれであれ、信者の人生は簡単だと約束する人は、あなたに嘘をついています。パウロが第2テモテ4章で、テモテに手紙を書いたとき、彼は、まもなく自分が死ぬことを知っていました。そして、彼はテモテにこれらの美しい言葉を書いたのです。彼は言います。「私は今や注ぎの供え物となります。私が世を去る時は、すでに来ました」彼が言ったことを見てください。皆さんにお聞きしたいのは、あなたの日が来ているときに、あなたは同じことが言えますか? パウロは、「私は勇敢に戦った」と言いました。「勇敢ではない戦い」があることを知っていますか? 「その席は、私が取っているんだ!」「私の席に座った!」「私の場所に駐車した!」「あなたは、私にこんな事をした!」「あんなことを言った!」これらは愚かなことです。これらは「勇敢な」戦いではありません。勇敢な戦いとは、あなたの信仰についてです。それはあなたの心についてです。それは永遠についてです。それはあなたの将来についてです。それは、それらのことについてです。それが、勇敢な戦いです。そして、それは戦う価値があります。それにふさわしくない戦いをしないでください。第1コリント9章を見てください。パウロは言いました。



ですから、私は…空を打つような拳闘もしてはけません。(第1コリント9章26節)

マニー・パッキャオに尋ねてみてください。(マニー・パッキャオ：フィリピンの政治家。史上二人目の6階級制覇王者を成し遂げた、元WBC世界フライ級王者)彼は言うでしょう。「空を打っても何の意味もない」あなたは人を打ち負かす必要があります。あなたは状況を打ち負かす必要があります。あなたは重要な戦いを勇敢に戦う必要があります。ただ空を打つだけではいけません。戻って、彼は言いました。

私は勇敢に戦い、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。(第2テモテ4章7節)

ほら、パウロは競争があると言いました。人生は、散歩やウォーキング、すべてが素晴らしいではありません。それは競争です。私はいつも、キリスト教とは下りのエスカレーターを走って上るようなものだと感じてきました。試したことがありますか?エスカレーターは下り、あなたは駆け上がる。足を止めると、どうなりますか?あなたは下に行く。「これから数ヶ月の間、クリスチャンとしての歩みを少しお休みします」なんてものはありません。そんなものはありません。信者の人生は競争です!そしてパウロは、それらを第1コリントで言っています。

競技場で走る人たちは、みな走っても、賞を受けるのはただひとりだ、ということを知っているでしょう。ですから、あなたがたも、賞を受けられるように走りなさい。(第1コリント9章24節)

ただブラブラ歩くのではなく、ただこんなふうにしてないで、走れ!勝つために走れ!「私は競争を走り終えました」と、彼は言いました。ところで、私たちのゴールは上にあります。ここではありません。パウロは、すでに『天国へようこそ』の立て札を見ることができました。そして、彼は言ったのです。

私は、信仰を守り通しました。(第2テモテ4章7節)

「私は信仰を失いそうだった」ほら、私は、私に対して悪を働いたすべての人を責めることもできるでしょう。そして、信仰から離れ、好き放題をすることもできたのです。「ああ、彼は私に意地悪だった。あのクリスチャンたち…」いいえ。キリスト教は、キリスト教徒が全てではありません。キリストが全てです。そしてキリスト教は、私たちに何も問題はないとは約束していません。キリスト教は問題の欠如ではありません。キリストの存在です。だから、それはあなたの選択です。「私はクリスチャンになりたくない」「彼らは邪悪な人々だ」それなら、あなたの問題は、あなたがイエスを見ていないことです。私たちの信仰の創始者であり、完成者。あなたは人を見ています。

私は…信仰を守り通しました。今からは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。

(第2テモテ4章7節から8節)

義の栄冠。そして、彼はキリストの裁きの御座の日が、まだであることを知っていました。「皆が来るのを待たなければならない」そして、携挙の日にあなた方が来ると、

かの日には、正しい審判者である主が、それを私に授けてくださるのです。(第2テモテ4章8節)

その日…彼は言いました。私だけでなく、あなた方全員に会うその日が待ちきれない。誰?

私だけでなく、主の現れを慕っている者には、だれにでも授けてくださるのです。

(第2テモテ4章7節から8節)

あなたは愛し、待っていますか?あなたは、熱心に彼の帰りを待っていますか?

お父様、あなたの御言葉に感謝します。私たちは、熱心にあなたの戻りを待てることに感謝します。私たちは熱心に待つべきです。私たちは、あなたの現れを待ち焦がれる必要があります。あなたが私たちのために

用意しておられる義の栄冠が待ちきれません。きっとあなたは、すでに私の名前でキープしてくださっているのでしょう。もし、確かに我々が競争を走り抜けば。私たちが、戦いを勇敢に戦うなら。そして、私たちが信仰を保つなら。私たちはあなたに感謝し、私たちはあなたを祝福します。私たちは、第二の死や火の池に何の関わりもありません。私たちは、すでに来る新しいエルサレムの住民です。あなたが私たちのために持っている偉大な約束を、あなたに感謝し、あなたを祝福します。

お父様、私たちが不信者に対して、差し迫る過酷な時代と季節について証ができるよう、助けてください。イエスの御名のもとに。
アーメン。



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2020.03.29 (Sun)